

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773600061		
法人名	医療法人 フェニックス		
事業所名	グループホーム オアシス		
所在地	沖縄県島尻郡南風原町新川452-1		
自己評価作成日	令和4年10月30日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4773600061-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和4年 12月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の想いを大切に、家族との絆を大切にしながら、ゆったりとした心地良い居場所を提供できるよう、明るく元気なスタッフが支援しています。医療法人を母体とし、各種の相談・支援など安心して利用できる多くの連携があります。施設内も明るく、38メートルの廊下での歩行練習や敷地内散歩など行動範囲を広く生活を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、デイサービスや有料老人ホーム等がある複合施設の中にある医療法人が運営するグループホームである。法人が地域との連携に力を入れており、自治会に加入し、理事長が評議員を務めるなど、自治会との協力関係ができています。自治会の清掃作業に参加するなど地域との関係を大切にしている。利用者の思いを大切にケアに取り組むことを職員全員が心掛け、コロナ禍であっても外出支援に取り組み、人の利用が少ない時間に出かけるなど工夫を施して実施している。ファーストフード店のハンバーグを購入して提供すると利用者が大変喜んでいたりなど、利用者に寄り添った支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者も職員も「お互いに助け合う」グループホームを目指して、安全で安心して生活できる環境作りに努めている。視認できる場所に理念を掲げ、常に確認できるようにしている。	理念は職員とともに意見を出し合い現在の理念となっている。みんなの目標の「ちゅいしいーじしいーじ(お互いに助け合う)」は利用者から教えてもらった方言を採用している。毎年、12月に見直しを行い、理念に沿った利用者の希望を叶えたいという思いを再確認しケアに携わっている。理念はホールに掲示して毎日確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各種行事の開催及び参加の自粛を徹底し、法人において南風原町新型コロナワクチンチーム等との情報交換を行っている。	地域の自治会に加入し、法人の理事長は自治会の評議員となっている。自治会会館が無いときは病院の会議室を自治会の定例会等に提供し、自治会と合同の敬老会をボランティアも参加して病院の体育館で開催することもあった。職員は、自治会主催の草刈り作業等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の医師が「沖縄県認知症サポート医」であり、地域の保健医療、福祉に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においての面会制限を実施する中で家族の希望もあり、それに向けて検討しリモートでの面会を実施した。	運営推進会議はコロナ禍により、書面開催となっているが、前もって委員へ電話で要望や意見を確認して会議へ反映させている。委員の構成は行政の課長、自治会長兼民生委員、知見者、家族、利用者、法人代表で年6回定期的に開催されている。外部評価や事故等の報告もされている。家族の意見でガラス越しの面会やリモート面会を取り入れ、家族から喜ばれている。会議録は簿冊で玄関近くで閲覧できるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、南風原町新型コロナワクチンチーム等との情報交換における各種情報を入手している。介護従事者のPCR検査実施事業を通して行き安心してケアが行える体制を確保している。	コロナ禍の中、職員や利用者のPCR検査の調整で役場とは連絡を取っている。また、主管課長が運営推進会議のメンバーとして情報交換が行われている。生活保護受給中の利用者の件で、ケースワーカーと電話で医療券の発行等や現在の生活状況等の報告がされている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを意識して継続できるように、いろいろな情報をもとに勉強会を開催している。利用者の尊厳と主体性を尊重し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等の適正化委員会は、3か月に1回開催され、議事録も整備されている。契約時に身体拘束をしないことによるリスクについて説明し理解を得ている。研修も「身体拘束をしないためのケアの工夫事例集」や外部講師による研修が定期的実施されている。カメラは廊下に設置されているが、日頃はモニターは切っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで高齢者虐待に関する知識を身に付け、グループホームサービスの「コンプライアンスルール」に沿った介護ができるよう職員に徹底を図り、虐待のない介護を実践している。更に、アンケート等の実施を行った。	虐待の防止の徹底については、管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、ミーティングや勉強会で虐待防止について話し合いがされている。不適切なケアや虐待について、法人として全職員を対象に、虐待チェックリストを使用し、人権尊重や話し方、呼称等20項目についてアンケートを取っている。職員のストレスチェックについても毎年実施されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実務者研修等で制度の理解や必要性について学ぶ機会をもっている。また、足りない所は法人の地域連携室の支援が受けられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容(重要事項説明書等)の変更があった場合は、文書による説明と同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの話を確認する中で面会に関する要望が多くあり、いろいろな方法を家族と相談しながら実施した。	利用者の意見は外出したい、ピザが食べたい等があり、外出については人との接触が少ない時間に近くをドライブしたりしている。また、宅配ピザを注文し、商品の受け取りと支払いも利用者に行ってもらおう等している。家族のガラス越しの面会だけでは物足りないという要望があり、リモート面会を実施している。コロナ禍で面会がない利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新型コロナウイルス対策に対する不安も多く、各種情報提供、相談が行える環境がある。	職員からの相談として、コロナ感染に対する不安の訴えが多くあった。法人の感染対策委員会で対応を検討し、職員への宿泊施設の提供やコロナ休暇の付与、コロナに感染した職員への心理士による面談等が実施されている。職員意見でトイレや風呂場に大型扇風機や手すりの追加などが実現している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員登用制度による正職員への登用や、やりがいのある職場環境整備に努めている。法人との連携においてやりがいをもってもらえるよう人事異動等考慮している。	就業規則で年休や特別休暇、健康診断等の実施、正職員登用制度等就業環境が整備されている。健康診断は法人が費用を全額負担している。資格取得に必要な費用の助成があり、研修等の参加時は勤務調整を行っている。職員は全員正職員とするなど働きやすい環境整備がされている。職場におけるハラスメント防止規程等が整備され、管理者が研修を受講し、職員へも周知されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会を受講できる機会を確保している。また、上位の資格取得のための研修の受講料等の一部を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会が実施する研修会等での交流や情報交換等を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	詳しいアセスメントを行い、ご本人の想いを汲み取り、訴えの傾聴や声掛け、環境整備をする等の工夫や家族にも協力してもらい安心感が得られるよう、より良い関係作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞かせて頂き、お互いが協力してより良い支援が出来るよう関係作りに努めている。また、利用者の現況を報告する事により信頼関係作りに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の想いを伺い、各種サービスの活用等、必要に応じた支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じた出来る事(洗濯物たたみや洗い物、シーツ交換等)を一緒に行う事でお互いの関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでの様子をご家族に伝え、できる範囲で協力をいただき、支援を得ながら共に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会制限や外出自粛が行われていた為、ハガキ等を活用してもらった。地域の情報等は毎朝の新聞読み聞かせ等から得ている。	馴染みの関係等は、日常生活で利用者との会話の中で把握している。コロナ禍の中でも人の少ない時間帯に馴染みの場所へ出かけるなどしている。暑中見舞いや年賀状を友人等に送るなどで関係が途切れないよう支援している。毎朝、コーヒーを飲みながら職員の新聞音読を聞き、地域情報を得る利用者もおり、地域との関係が途切れないよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切にし、利用者同士の橋渡しになれるよう心掛けている。理念に沿った支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方及びご家族との関係を維持し、可能な場合、退所先への訪問や情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や生活パターン等からその人の思いを察知することに努め、一人ひとりの希望に添えるよう努めている。	本人の思いや意向はアセスメントで把握している。外出したいとの要望には、コロナ禍で制限があるので施設内を散歩したり、病院の売店に出かけ買い物をしたりしている。家に行きたいとの希望に対しては一緒に出かけ、冬物の衣類を取ってくるなどしている。意思表示が困難な利用者は、日頃の会話などから推察し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、御家族、医療機関、介護施設等から得られた情報を元に本人の思いを理解し、安心して生活ができるよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は申し送りでも確認され、心身状態においても常に注意を払い把握している。また、本人ができることはないかひとり一人の有する力を把握するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスと更に日々の申し送りや本人との会話の中で想いを汲み取り介護計画を作成している。	介護計画は長期目標6か月、短期目標3か月で計画が作成されている。個人台帳にケアプランチェック表があり、モニタリングの実施と介護計画の見直しが行われている。介護計画の見直し時は、家族等の意向が面談シートで把握されている。入院時や介護度の変更等、状況変化に応じて随時の見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫があれば、介護記録や申し送り、伝言ノートで情報の共有を行い、定期ミーティングでの確認を踏まえてケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナ対策に対する不安も多く、法人と連携することで感染対策及びワクチン接種等の対策を実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染対策を行う中で外出自粛を行っており、社協等からの備品の借用などの活用も検討し施設内での楽しみの支援も検討。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、定期受診を行う病院の他、馴染みの病院へ受診も行っている。受診時の調整、ご家族との連絡・協力を受けながら、スムーズに受診できるよう支援している。他科受診の場合には情報提供書を作成している。	利用者は全員、法人の医療機関も受診しており、法人内には沖縄県認知症サポート医も常勤されている。他科受診の場合は家族対応で情報提供書を持参し受診している。受診後の処方薬等の情報は家族から口頭で聞き、職員は申し送りや介護日誌などで情報を共有している。訪問看護師と連携し、血液検査など健康管理を行っている。協力歯科医による往診も行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整備しており、訪問看護で健康状態、心身状態の把握・管理を行っている。状態の変化があった場合は、相談、助言、指示を仰ぐことが可能であり、利用者の健康管理、看護支援体制が整備されている。外来に相談も可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、御家族との連絡をとり本人の状態把握に努めている。また、入院先の担当医や相談員等から情報を得て、職員全員で退院後の対応についての検討も行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながら重度化及び終末期における対応をスムーズに行えるよう情報交換している。ご家族の不安が無いよう法人全体での対応や取り組みも案内している。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、利用契約時に看取り介護について利用者家族と相談している。利用者の状態変化に応じて終末期などには転居先として、馴染みのある敷地内に隣接している法人の介護医療院への移行も案内している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの見直しを行いそれに合わせた研修を実施。	緊急、事故発生時対応マニュアルを整備し、緊急時の連絡体制もわかりやすくフローチャートで表示され、異常事態や事故発生時は、マニュアルに沿って対応している。ベンチで休んでいた利用者が急に意識喪失した時には、法人の全施設に緊急コールを流し、デイケアの医師や看護師が速やかに駆け付けて対応している。職員は、使用期限の切れたAEDを活用し、心肺蘇生法の訓練を実施している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的を実施している。	オアシス及び法人でのクラスター発生に伴いBCPが発令され実践を行った。日中、夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。	災害対策では、昼夜を想定した自主消防避難訓練を法人全体で年2回実施している。本館に繋がっている火災通報により、警備員も消防避難訓練に参加している。「新型コロナウイルス感染症発生時のBCP」が整備され、医師や看護師、事務職員による災害対策本部を立ち上げ、ゾーニングや防護具の着脱などの対策を徹底している。食料の備蓄リストを作成し、麻婆「魅」など保存食品を組み合わせたメニューを作成し、職員を含め3日分の備蓄がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格を尊重し、常に本人の気持ちを大切にしよう「丁寧な言葉で、すてきな共感介護」を合言葉に、言葉使いや態度、表情等に気を付け対応している。	職員研修で学んだ「ていねいな言葉ですてきな共感介護」を忘れないように事務室に張り出し、利用者一人ひとりにていねいな言葉かけを行っている。トイレはカーテンとドアで二重にし、利用者の羞恥心に配慮している。個人情報保護方針や利用目的を玄関入口に掲示している。入居契約書や就業規則に秘密保持が明記され、職員は利用者のプライバシーの保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースに合わせて、時間をかけて接する事を基本にご本人に選んでもらう場面を作るようにしている。思いや希望を表せない方には日頃の行動や対応などから気持ちを汲み取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースで過ごせるよう、時間的に余裕を持って対応するよう心掛けている。朝の内でその日の希望を確認しながら予定を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの服の選定や化粧等を施しその人のおしゃれ支援をしている。散髪は訪問理容を利用し、福祉理美容師の方に来ていただき入居者それぞれの希望に沿って切ってもらっている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の行動の中で何かできるものはないか、出来る事があればお願いし、見守りながら一緒に行っている。週に1回はリクエストを聞きながらのおやつ作りがあり、職員と一緒に調理する等楽しんでいる。毎年恒例の野菜作りでは一緒に収穫しそれを調理することで笑顔が見られる。	朝夕の食事は法人病院から、昼食はデイサービスの厨房から、盛りつけられた食事をとっている。おやつの中には、利用者と職員と一緒に自家栽培のゴーヤーを天ぷらやジュースにして食している。季節に合わせて、桜もちやムーチー作り、ピザパーティやファーストフード店のハンバーガーを食するおやつ時間を大事にしている。法人として、マスクを外した対応を制限しているため、現在は利用者と職員と一緒に食事を摂っていない。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表にて、こまめに水分補給を行ったり、本人の体調や嗜好に合わせ栄養士にも相談しながら栄養バランスを考慮した支援に務めている。水分摂取量については、一人ひとりの一日の必要量を主治医へ確認したり、それを目標に水分補給を行っている。水分摂取の進まない方にはゼリーを作るなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛け、義歯洗浄の支援、個々の状態にあわせたケアを行っている。また、必要に応じ、ご家族へ歯科受診を依頼することもある。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンを把握し、トイレにて排泄ができるように本人の仕草や表情に目を配りながら声掛け、誘導、必要時の介助を実施している。特にリハビリパンツから布パンツへの移行に努め清潔が保てるよう力を入れている。夜間オムツを使用している方でも、日中はこまめに誘導を行い布パンツで過ごしてもらっている方もいる。	日中は、重度化した利用者を除いてトイレでの排泄を支援している。ムレ防止のため、日中は布パンツにパットを使用している利用者が5名いる。夜間の排泄支援は、睡眠を重視しており、おむつを使用する利用者やポータブルトイレの利用者もいる。便秘対策として、排泄チェック表を確認し、ヨーグルトやプルーン、きなこ牛乳、乳酸菌飲料などを提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を促している。また、毎朝ヨーグルト、必要時にはプルーン、きなこ牛乳などの便秘に効果のあるものを利用して取り組んでいる。便秘予防にとご家族の方がヤクルト等を定期に持って来られ、毎日飲まれている方もいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を実施しているが、ご本人の希望に合わせて時間をずらす等の対応ができるようにしている。異性介助を嫌がる利用者は介助者を変える等の対応をしている。順番なども希望に沿って考慮している。	入浴は、週3回のシャワー浴を基本とし、同性介助の支援に取り組んでいる。特に、男性職員による入浴介助を拒む女性利用者には、シフトを合わせて支援している。スマートフォンを使用して利用者の好みの曲を流し、ゆったりとした気分で入浴できるように支援している。電動髭剃りや好みのシャンプーなどを使用している利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で身体を動かす時間を作り、昼の休息等、生活リズムを安定させることにより安眠に繋げられるよう支援している。各居室には、湿度、温度計、エアコンを設置し快適に過ごせる環境管理を行っている。冬は各部屋に加湿器の設置も行っている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書ファイルを全職員が目を通せる場所に備え付け活用している。利用者への服用の際は、名前、日付、いつ飲む薬かのダブルチェックを実施した後に服用させている。また、処方薬の変更等は、申し送りをい状態観察を行っている。	服薬支援では、薬の預かり及び処方薬の準備や薬のセット、与薬、服薬後、誤薬発生時の対応など、「服薬マニュアル」が整備され、マニュアル通り実施されている。この1年、誤薬の発生が無く、安全な服薬支援を継続している。法人による「医療・薬事安全委員会(規定)」が定められており、誤薬等は報告する体制があり、安全管理や処方薬の単剤化が進められている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の思いを尊重し、出来る事は負担のないよう意欲を持って行えるように、共同生活の中で役割を持っていただき本人の楽しみ事を増やしていけるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過での外出自粛が行われる中で、よく説明し引きこもらないよう敷地内の散歩等を多く取り入れた。	コロナ禍にあっても、法人デイサービスのリフト車を借りて、体調のいい利用者全員で人混みを避け、短時間で安全なドライブを支援している。季節を感じる風や景色が脳を刺激し、気分転換になる外出支援に取り組んでいる。重度化した利用者は事業所敷地内で外気浴を行うなどの支援をしている。外出が困難な場合には、38mある廊下を往復するなど気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の意向を伺いながら、相談、確認をしお金を所持してもらっている。買物の際はご自分の財布から支払い、お小遣いノートへ記入してもらい自己管理を支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年 4月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の希望時には、いつでも電話のやりとりが出来る環境にある。また、年賀状や暑中見舞いは1人ひとりの手作りのハガキを作成してもらい、家族との話題にもなるよう工夫しながらやり取りができるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、温度・湿度に気を付け利用者が不快を感じないような設定にしている。生活環境については、利用者の目線に合わせた対応に心がけ、庭の植物や壁の掲示物等、季節感を感じられるよう工夫している。利用者が行き来する廊下には活動状況の写真を掲示、食堂には利用者が手工芸で作成した物を掲示している。	共用空間の玄関や廊下には、季節に合わせ、正月飾りやクリスマス等の飾りつけが施されている。食堂兼居間では2台のテレビを設置しており、利用者の選択肢を増やしている。庭のベンチは、一人でくつろげる場所ともなっている。中庭のクリスマスイルミネーションを利用者は楽しみにしている。ベランダでゴーヤー等の栽培を楽しむ利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファや椅子の設置、庭のベンチでくつろげる場所を確保している。利用者には、本人の判断で好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用するものについては、ご本人及びご家族と相談しながら使い慣れたものを使用している。各居室においては、個々の趣味や家族写真を貼り、居心地よく過ごせるよう工夫している。自分で作った作品を飾ったり、たくさんの本や三線、聖書を置いている方もいる。	居室には、ベッドやエアコン、タンス、ソファと丸テーブルが備え付けられている。温湿度計が設置され、空気が乾燥している場合には加湿器を使用する場合もある。利用者は使い慣れたパソコンや囲碁盤、書道道具、CDラジカセ、サンシン、日めくりカレンダー等を持ち込んでいる。壁には家族写真や書き初めなどが飾られている。美術教師だった利用者は、自作の水彩画を飾る等、自分らしい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全に配慮され手すり等も設置され、行動の妨げがないように工夫している。また掲示物については、本人の馴染みのある言葉を使用し、出来るだけ本人がわかるように工夫している。		